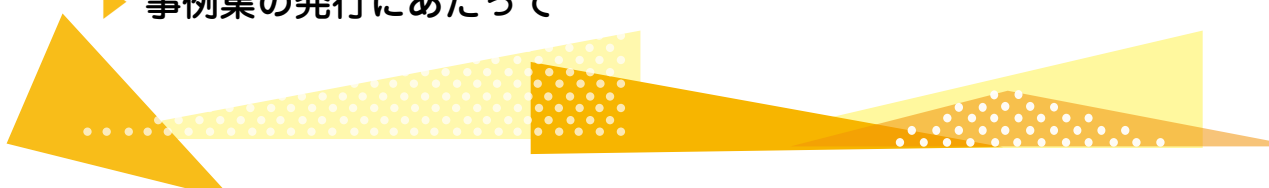


第6回 食育活動表彰

事例集





▶ 事例集の発行にあたって

平成28年度から、農林水産省は「食育活動表彰」を立ち上げ、ボランティア活動、教育活動又は農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じて食育を推進する優れた取組を表彰しています。

今回の表彰対象の活動は、第4次食育推進基本計画の重点事項を中心に

- (1) 生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進する活動
- (2) 持続可能な食を支える食育を推進する活動
- (3) 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育を推進する活動
- (4) その他の食育を推進する活動

としています。

表彰部門には、都道府県、政令指定都市、大学等からの推薦によるボランティア部門と、自薦応募も可能な教育関係者・事業者部門の2部門を設定しています。

今回は192件の事例の中から、特に優れた取組を行っている5件の団体に対して農林水産大臣賞、優れた取組を行っている14件に対して消費・安全局長賞が授与されました。

受賞者の取組をまとめた本事例集は、地域で様々な食育活動を行っている方々の参考としていただけるよう作成いたしました。皆様の今後の食育活動をより一層充実したものにしていただくために、御活用いただければ幸いです。

令和4年4月

農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課



▶ もくじ

■ 第6回食育活動表彰審査委員会 委員	1
■ 第6回食育活動表彰 講評	2

ボランティア部門 — 受賞団体・個人の取組紹介 —

[食生活改善推進員の部]

 十島村食生活改善推進員連絡協議会 [鹿児島県]	4
 大阪市東住吉区食生活改善推進員協議会 [大阪府]	5
 吉賀町食生活改善推進協議会 [島根県]	6

[食育推進ボランティアの部]

 長田 勇久 [愛知県]	7
 愛媛県農山漁村生活研究協議会 [愛媛県]	8
 シニア世代のサバイバル男料理の会 [岡山県]	9
 島根県立大学 地球食堂サークル [島根県]	10

教育関係者・事業者部門 — 受賞団体の取組紹介 —

[教育等関係者の部]

 NPO エコラボ [石川県]	12
 下関市立しものせき水族館「海響館」 (公益財団法人 下関海洋科学アカデミー) [山口県]	13
 公益財団法人 岡崎市学校給食協会 [愛知県]	14
 東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部 PROJECT TOYO [兵庫県]	15

[農林漁業者等の部]

 ファーム・インさぎ山(有限会社諏訪野) [埼玉県]	16
 愛南町ぎょしょく普及推進協議会 [愛媛県]	17
 株式会社須藤牧場 [千葉県]	18
 農業生産法人 株式会社オルタナティブファーム宮古 [沖縄県]	19

[企業の部]

 キューピー株式会社 [東京都]	20
 株式会社ニチレイフーズ [東京都]	21
 カゴメ株式会社 [東京都]	22
 株式会社クラダシ [東京都]	23



農林水産大臣賞



消費・安全局長賞

▶ 第6回食育活動表彰審査委員会 委員

相澤 啓一 長野県農村文化協会 事務局長

赤松 利恵 お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授

秋田 昌子 すみだ食育goodネット 顧問

倉本 善子 株式会社共同通信社 大阪企画事業部 主任

中嶋 康博 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

牧 志穂 株式会社博報堂 PR局 PRプランニング2部 部長

敬称略：50音順

▶ 第6回食育活動表彰 講評

審査委員長
中嶋 康博

＜東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授＞



第6回食育活動表彰では、全国都道府県等から推薦された192件を対象に審査を行い、その中から優れた19の食育活動を表彰することとなりました。受賞された団体・個人の皆様に心からお慶びを申し上げます。

審査委員会では審査基準に基づき、先進性、継続性、有効性、波及性、実践性の5つの観点から評価をし、さらに、以下についても審査委員で熟慮を重ねて検討を行いました。

- ① 対象活動が第4次食育推進基本計画の3つの重点事項の効果的な解決に資するものであるか。
- ② “地域における食の循環”全体の中における自らの活動の目的や目標を明確にし、企画、実施、評価までに関して地域との連携を踏まえて活動を進めているか。

「ボランティア部門」（食生活改善推進員の部）では、鹿児島県の十島村食生活改善推進員連絡協議会が、中学卒業と同時に親元を離れる子供たちの食の自立支援、頻発する自然災害に備えた災害時の食事づくりなど、離島ならではの課題解決に向けた食育活動を進めています。「同部門」（食育推進ボランティアの部）では、愛知県で和食料理店を営む長田勇久氏が、地元の生産者や食品事業者と連携し、伝統野菜や醸造文化の研究と発信、小中学校や栄養教諭等への料理講座などの個人の域を超えた多彩な取組を展開され、コロナ禍ではオンライン手法も駆使した活動を続けられています。

「教育関係者・事業者部門」（教育等関係者の部）では、石川県のNPO法人エコラボが、地域資源を活用した体験型環境食育講座を開催し、食の生産・流通・保存・調理・廃棄のLCAに注目したエネルギー削減、マネジメント視点に基づいた食の廃棄物発生抑制プログラムを実施されています。「同部門」（農林漁業者等の部）では、埼玉県ファーム・インさぎ山が、農のあるくらしをテーマに環境との共存・共生を目指す食や自然の大切さを学ぶ農体験の機会を長い年月多くの方々へ提供してきましたが、最近ではデジタル手法も取り入れて活動の幅を広げるべく進化を続けられています。「同部門」（企業の部）では、キューピー株式会社が、工場見学を基点にした食の大切さと楽しさを伝える活動を60年継続し、講演会や出前授業を全国的に展開しつつ、コロナ禍においてはいち早くオンラインによる新たな食育活動にも取り組まれています。

以上御紹介した活動以外にも、新たに策定された第4次食育推進基本計画での課題である、生涯を通じた心身の健康、持続可能な食、「新たな日常」やデジタル化への対応といった観点から食育を推し進めている、堅実な取組やアイデア溢れるユニークな取組を表彰させていただくことができました。

この表彰を契機にして、食育に係わる取組の新たな展開が起こり、そして国民の間に食育の意義が深く理解されることで、家庭、学校や保育所等の教育現場、そして地域における食育の一層の推進につながっていくことを祈念いたします。

受賞団体・個人の取組紹介

ボランティア部門